

奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画の令和 6 年度実施結果

計画			計画内容	結果
(1)被害防除			保護地区（A、B 地区）に近く農業被害が大きい地域について、被害防除対策（防護柵の設置）を実施する。	【資料 3-2】 ・第 8 回検討委員会において検討した防鹿柵の設置方針に基づき、奈良阪町（鼓阪地区）において、令和 7 年 3 月に防鹿柵を 317m 設置した。
(2)捕獲			シカの生息密度が高い地域かつ農業被害意識が高い地域で加害個体あるいはその可能性が高い個体を捕獲する。 期間：令和 6 年 6 月 14 日～令和 7 年 3 月（予定） 地区：下記 9 地区の D 地区に含まれる集落 猟友会奈良支部：田原地区、精華地区、東市地区、帯解地区、鼓阪地区 猟友会柳生支部：東里地区、狭川地区、大柳生地区、柳生地区 方法：箱わな、足くくりわな 頭数（上限）：9 地区で合計 225 頭 ※両支部とも各地区の捕獲数の上限は設定していない。	【資料 3-3】 ・左記 9 地区で捕獲を実施し、令和 7 年 2 月 3 日時点で上限の 225 頭を捕獲した。 奈良支部：115 頭、柳生支部：110 頭
(3)モニタリング	1)被害調査	①防鹿柵効果検証調査	対策（被害防除対策）による被害低減効果を検証するため、前年度に防鹿柵設置箇所において、対策前後の農業被害等について把握する。	【資料 3-4】 ・令和 5 年度に設置した防鹿柵の効果検証調査（ヒアリング及び現地確認）を実施し、防鹿柵による被害軽減効果を確認した。 ・防鹿柵設置前と比べて被害意識の低減が見られた。 ・入口ネット下部からの潜り込み、令和 5 年度で農地を囲う形での施工未実施による柵端部からの侵入を確認し、被害を完全に防ぐことはできなかった。 ・令和 4 年度に設置した防鹿柵に多くのシカの侵入されていたことから、高柳委員立会いのもと、シカの侵入場所の点検及び追加対策指導を行った。 ・追加対策後、侵入頻度は減ったが侵入を完全に防ぐことはできていなかった。
		②捕獲効果検証調査 ※令和 7 年度実施予定	対策（捕獲）による被害低減効果を検証するため、捕獲実施集落における農業被害等について把握する。	・令和 7 年度に実施予定。
		③農業被害調査	シカによる農林業被害の状況把握、各地域において実施すべき対策内容の検討、捕獲実施地域の選定、対策（捕獲、防鹿柵設置等）による被害軽減効果の把握のため、アンケートによる調査を行う。	【資料 3-4】 ・2,535 通送付のうち、891 通回収（回答率 35.1%） ・回答率は、前回（令和 4 年度：25.9%）と比較し大きく改善した。 ・シカによる被害について、回答者の 80%以上が被害があると回答し、40%以上が被害が「大きい（生産量の 30%未満）」または「深刻（生産量の 30%以上）」と回答した。 ・前回調査年度と比べた被害の傾向は、捕獲実施地域における回答者の 70%が「増加した」または「変わらない」と回答し、現在の捕獲頭数では被害の低減には至らなかったと考えられた。 ・前回調査結果をアンケート対象者に報告した。
		④森林生態系影響調査 ※令和 6 年度は実施予定なし。	下層植生衰退度調査を実施し、森林内の下層植生の衰退程度を把握する。	・令和 6 年度は実施予定なし。

奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画の令和 6 年度実施結果

計画			計画内容	結果
	2)生息状況調査	①生息密度調査 ※令和 7 年度実施予定	シカの生息状況の把握、捕獲実施地域の選定、捕獲数の設定、捕獲の効果検証のため、冬季に糞粒法調査を実施する。 対象地域：B、C、D地区	・令和 7 年度に実施予定。
(3)モニタリング	3)捕獲個体調査	①基本情報調査	・個体群の基礎的な情報評価等のため、捕獲個体に関する情報（性、外部計測値）を収集する。	・捕獲個体に関する情報（性、外部計測値）を収集した。
		②詳細情報調査	・個体群の状況把握、捕獲個体の状況把握のため、捕獲個体に関する情報の収集を行う。 ・捕獲個体数、捕獲位置、捕獲個体の性、体重、乳汁分泌の有無の記録を行い、捕獲個体から下顎、切歯、生殖器、遺伝子解析用サンプルとして筋肉片を収集する。 ・遺伝子解析用サンプルについては、次年度以降の分析に供するため冷凍保存する。	【資料 3-3】 ・分析として、齢区分査定、妊娠率、栄養状態を把握した。 ・齢区分査定によると、令和 6 年度の捕獲個体の性齢の構成は過年度と同様の傾向を示し、2 歳以上の個体が半数近く(49%)を占め、メス(36%)よりもオス(64%)の方が多く捕獲された。 ・2 歳以上の捕獲個体には、成獣になったばかりの比較的若齢の個体が多かったと推定された。 ・令和 6 年度の妊娠率は、2 歳以上の個体は 89%で、令和 5 年度と同程度であった。 ・栄養状態については、令和 6 年度は体重による分析を行ったが、鈴木（1994）が歯牙年輪による詳細な年齢区分により示したような季節変化は見られなかった。 また、過年度からの推移においても、大きな変化はなかった。 ・遺伝子解析用サンプルとして筋肉片を採取し、将来分析のための試料として保存した。
	4)捕獲作業の記録		・捕獲作業の評価を行うため、捕獲に関する情報（わな設置地点、わな設置基数、わな稼動期間、捕獲数、捕獲位置、見回り記録等）を収集する。	・捕獲に関する情報を収集、分析中。 ・わなの管理表を、捕獲従事者に配布、記入を依頼した。